

第5章 代表的施設の推奨色

1 代表的施設の一覧

本章では、「島根県公共事業等景観形成指針」及び「島根県大規模行為景観形成基準」に掲載されている各種施設の中から、いくつかの代表的施設を取り上げ、それぞれの推奨色の考え方と色彩設計事例を示しています。下表に、本章に記載した施設の一覧とそれぞれの「色彩タイプ」を記載しました。なお、それぞれの推奨色の範囲等の具体的指針については、施設の景観タイプと色彩タイプに応じて、第4章の該当箇所を参照してください。

本章に記載した代表的施設

	施設の種類	色彩タイプ					掲載ページ
		メイン	サブ	リップ	ルーフ	アクセント	
公共事業等景観形成指針	1. 擁壁	○					134
	2. 護岸	○					134
	3. 防護柵			○			134
	4. 舗装	○	○				134
	5. 標識及び公共広告	○	○			○	135
	6. 景観に配慮した占用行為	施設の種類と部位に応じる					135
	7. トンネル	○	○				135
	8. 高架橋及び歩道橋			○			135
	9. 道路付属物等			○			136
	10. 橋梁本体			○			136
	11. 高欄及び照明施設			○			136
	12. 河川・水路	施設の種類と部位に応じる					136
	13. ダム・堰堤等	○	○				136
	14. 港湾・漁港	施設の種類と部位に応じる					137
	15. 海岸	○					137
	16. 公共建築物	施設の種類と部位に応じる					137
大規模行為景観形成基準	17. プラント	○	○	○	○	○	137
	18. 遊戯施設	○	○	○	○	○	137
	19. 大型店舗	○	○	○	○	○	137
	20. ガソリンスタンド	○	○	○	○	○	137
	21. タンク（油槽・貯水）	○	○	○		○	138
	22. 鉄塔			○			138

2 施設別推奨色

2-1 擁壁

構造、形態、意匠及び素材については、できる限り周辺の景観と調和させるとともに必要に応じて周囲の緑化に努めること。(共通指針)

→緑化が望ましい構造物です。人工素材の場合は、「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の「メインカラー」を参照して下さい。

通常のコクリート色でも良好な景観を大きく阻害する事はありません。特に景観整備を推進している地域については、表面の凹凸感や色彩など、表面仕上げの検討を行ってください。

〈擁壁・護岸の色彩範囲〉

通常のコクリート色でも良好な景観を大きく阻害するものではない。メインカラーの中から、島根における岩石・砂・土として出現した色彩が、擁壁・護岸における色彩範囲の中心。



2-2 護岸

構造、形態、意匠及び素材については、できる限り周辺の景観との調和や生態系に配慮するとともに、親水性の確保に努めること。(共通指針)

→人工素材の場合は、「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の「メインカラー」を参照して下さい。

通常のコクリート色でも良好な景観を大きく阻害する事はありません。特に景観整備を推進している地域については、表面の凹凸感や色彩など、表面仕上げの検討を行ってください。

2-3 防護柵

構造、形態、意匠、素材及び色彩については、周辺の景観と調和するよう努めること。(共通指針)

→「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の「リブカラー：防護柵・照明柱・標識柱(直径400mm以内)・電柱(直径400mm以内)」を参照してください。

2-4 舗装

素材については、地域の特性や施設の用途に配慮するとともに、意匠及び色彩が周辺の景観と調和するように努めること。(共通指針)

→「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の「メインカラーおよびサブカラー」を参照して下さい。この際、路面種類に応じた色彩設計の考え方が「公共事業等景観形成指針4-3 共通指針」に掲載されており、それを参考に決定してください。

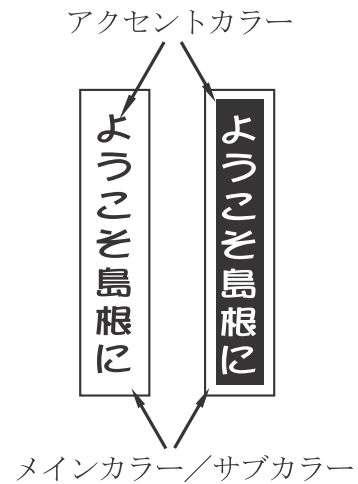
2-5 標識及び公共広告

形態、意匠、素材及び色彩については、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、できる限り適正な設置数及び場所として、地域や沿線の統一性に配慮すること。(共通指針)
→表示面のうち、文字やマークにあたる部分を「図」、背景となる部分を「地」とします。(反転文字を使用したときのように、逆転するケースもあります)。広告物の「地」には「メインカラー／サブカラー」の範囲から、「図」は「アクセントカラー」から選定します。

景観性と視認性の両方を考慮して色彩選定を行なうようにしましょう。

アクセントカラーの範囲に入っていない色彩のマーク等を用いるときは、必ず地色に相当する部分を設け、その部分は「メインカラー／サブカラー」の範囲の色とします。マーク等の図色は、その面積で、地色の2分の1以下を目安にして下さい。

交通標識などの身体の安全に関係するものは、ガイドラインの対象外とします。

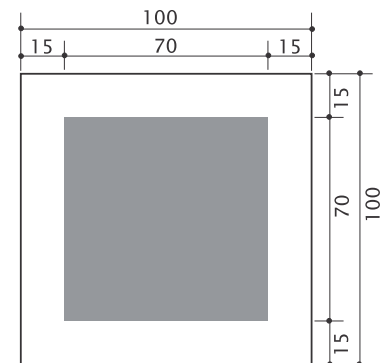


屋外広告物で、マークなどアクセントカラーの範囲に入らない色彩を用いる場合は、2分の1以上の面積を持つ「メインカラー／サブカラー」の枠をつける

2-6 景観に配慮した占用行為

公共用地における工作物の占用行為については、位置、形態、意匠及び色彩について、できる限り周辺の景観と調和したものとなるよう指導すること。(共通指針)

→これらの工作物の色彩基準は、対象部位分類に応じ、第4章を参照して下さい。例えば、電柱、ストリートファニチャー等は色彩分類ではリブカラーとなります。



■ マークなど図色が配置された範囲
(図中の数字はパーセント)

2-7 トンネル

坑口部は、走行上の違和感を与えないよう、周辺の景観と調和した坑門形式や壁面処理に努めること。(施設別指針)
→調和性や安全性などを考慮すると、目をひきつけるデザインの坑口部より、周辺景観になじむデザイン処理が望まれます。

2-8 高架橋及び歩道橋

形態、意匠、素材及び色彩は、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性に配慮すること。(施設別指針)
→歩道橋は沿道景観の連続性を断つ構造物なので、景観上特別の役割を設定しない限り周辺景観から突出した印象とならないようにします。



現状



周辺景観になじむように調整したシミュレーション事例

2-9 道路付属物等

防護柵、照明施設、案内標識等の形態、意匠、素材及び色彩については、周辺の景観と調和するよう努めるとともに、地域の特性又は統一性に配慮すること。

→推奨色の色彩範囲では低彩度の色域の中で、高明度から低明度まで幅広く設定していますが、周辺景観の特徴と対象物のボリュームによって使い分けてください。

樹木による緑の景観を大切にしたいところで比較的細い柱を使用する場合は低明度の領域から、太い柱（直径 400mm 以上）になると近景で圧迫感が生まれますので低明度色は避けたほうがよいでしょう。

全体に明るく開放的な雰囲気を持つ地域では、中明度から高明度の色域から選定してください。

2-10 橋梁本体

→橋梁本体については「第 4 章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」のリブカラーを参照して下さい。また、第 4 章の景観タイプ「河岸」には、橋梁の色を変えた数多くのシミュレーション写真と、色調ごとの印象を「イメージマップ」として掲載しております。中景と近景の 2 種類の原画像を用いたシミュレーション画像ですから、視距離による印象の違いを確認できます。設計時の検討資料としてご活用ください。

2-11 高欄及び照明施設

どちらも「第 4 章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」のリブカラーを参照して下さい。

桁や橋梁本体と高欄の配色によっては不調和な印象を与えるケースもありますので、そのあたりの配慮も必要です。一般的に調和すると考えられる配色は、色相が同じか類似の配色、また高欄がホワイトやライトグレイまたベージュ系の場合はどのような本体色がきても調和します。

2-12 河川・水路

「第 4 章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の景観タイプ「河岸」を参照して下さい。

2-13 ダム・堰堤等

ダム本体および堰堤については、p. 134 の擁壁・護岸の考え方と同様です。施設等は当該景観タイプのメインカラー



景観整備地区におけるアースカラーのカラーコンクリートによる堰堤デザイン事例

／サブカラーを参照して下さい。

2-14 港湾・漁港

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」の景観タイプ「港・大規模漁港」「小規模漁港・漁村」を参照して下さい。

2-15 海岸

護岸・堤防：p. 134 の擁壁・護岸の考え方と同様です。

2-16 公共建築物

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」のなかから当該景観タイプを選び参照して下さい。

2-17 プラント

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」から当該景観タイプを選定します。

最も大きな面積を占める外壁などはメインカラーから、またメインカラー1色の使用だと単調に感じられる場合などは、部分壁や低層部の色彩をサブカラーから選定します。設備やタンクの支持ラックなどはリブカラーから、また手すりなどの小面積部位を使って変化をつけたい場合はアクセントカラーから選定してください。



山を背景としたプラントの色彩設計事例
上はアクセントカラーの色彩を背景と類似にすることで環境との融和性を強調し、下は対照的な色相とすることで景観にやや変化を与えている

2-18 遊戯施設

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」から当該景観タイプを選定します。

周辺景観に対して過度に主張しすぎた事例が多い対象物です。リブカラー・アクセントカラーの面積比が高くなりなような配慮が必要です。



平野部と山間における施設の色彩設計事例
それぞれの背景色に対して融和的な景観を構成するベース、アクセントカラーの例

2-19 大型店舗

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」から該当する景観タイプを選定します。

周辺景観に対して主張の強い屋外広告物が目に付きやすい対象物ですから、屋外広告物にも配慮が必要です。賑わいの演出は、ファサードの低層部で行なうのがよいでしょう。

2-20 ガソリンスタンド

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」から該当する景観タイプを選定します。



現状



屋外広告物のアクセントカラーをガイドラインに沿ってシミュレーションした事例

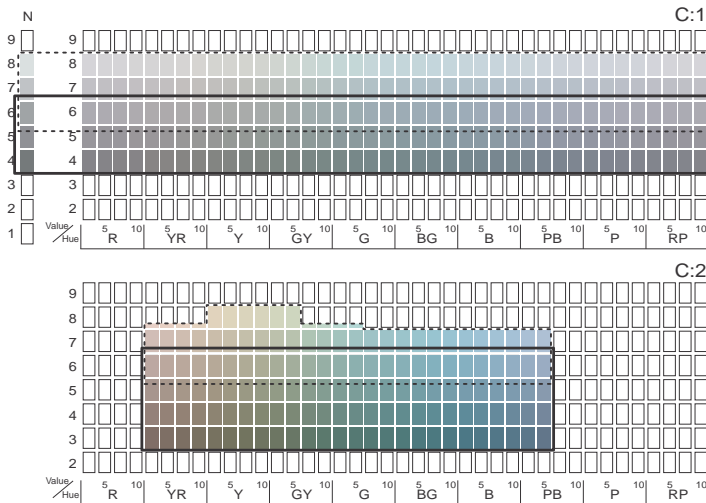
周辺環境に対して主張の強い外観が特徴の対象物です。特に、企業がロゴマークなどの色として指定しているコーポレートカラーには鮮やかな色もあります。鮮やかな色を全面に使用すると景観を損なうこととなりますので、面積や配置など、その使い方には充分注意してください。屋外広告物についても同様です。

2-21 タンク（油槽タンク・貯水タンクなど）

「第4章 地域別の色彩選定の考え方と推奨色」から該当する景観タイプを選定します。タンク本体はメインカラーの範囲から、支持ラックはリブカラーの範囲から選んでください。

2-22 鉄塔

一般的に鉄塔は、景観形成の立場から積極的に演出する対象というわけではなく、周辺景観に馴染ませる色彩を選定します。



背景が空か、山腹になるかによって推奨色が異なります。

具体的な色彩範囲は左のとおりです。

枠内：背景が山腹の場合 枠内：背景が空の場合

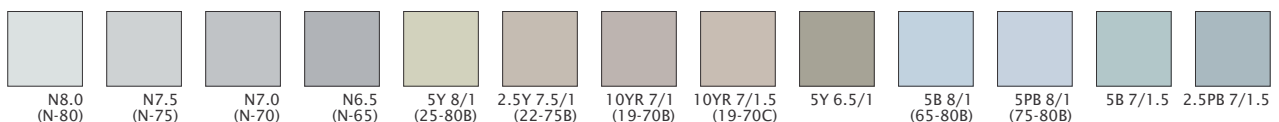
鉄塔の色彩範囲

カラーパレット 鉄塔

背景が山腹の場合の代表色



背景が空の場合の代表色



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。